

徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.9

2007.11.15

留学生交流の意義

留学生センター長 細井 和雄



平成19年4月1日付で留学生センター長に就任致しました。この機会に留学生事業について感じていることを小論に記し、御挨拶にかえさせて頂きたいと思えます。

文部科学省は主として日本語教育、生活情報の提供などを支援することを目的に平成2年度より留学生数の多い国立大学に留学生センターを設置してきました。日本語を全く理解できない留学生（国費留学生）には6ヶ月の日本語初等教育集中コースが提供されますが、留学生センターを持たない大学へ留学する学生はい

ずれかの大学の留学生センターでこのコースを受講し、その後、志望の大学に進学することになります。

本学の留学生センターは法人化2年前の平成14年（2002年）に設置されました。翌、平成15年を最後に法人化後はセンターの設置はなく、現在、全国52大学にのみ留学生センターが存在いたします。留学生センターの設置にともない教員が配置され、本学では5名の専任教員が留学生の日本語教育及び生活情報の支援に力を尽くしております。

さて、留学生交流の意義として、1. 諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成。2. 途上国の人材育成・知的国際貢献。3. 日本自身あるいは日本の大学の国際化や国際競争力の強化—などが考えられます。1、2は従来指摘されてきたことでありますが、3. は国際的に通用し、リーダーと成り得る日本人を育成し、国際的競争環境の形成を通じて教育研究における国際的通用性・共通性を向上させることで、これからの留学生事業の方向性として重要であると考えられます。

留学生受け入れ10万人計画は平成15年に達成されました。これは世界の留学生市場で5%を占め、これを背景にした国際社会における現在の発言力を維持するために日本は新たな数値目標を模索しています。一方、大学はその使命である教育研究の目標に沿うべく真に意義ある国際交流、留学生交流を目指すべきだと考えております。私たち教職員もそういった意味で努力して参ります。今後とも本学留学生センターの運営と国際交流発展にご理解を賜り、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



新任スタッフ紹介

国際交流係長



原 雄三

本年4月から担当することになりました。留学生の皆さんと接することで、自分も留学を疑似体験したいと思います。そして、機会があれば定年後には本当に留学してみたいと思います。

留学生支援室(蔵本キャンパス)



米田 典代

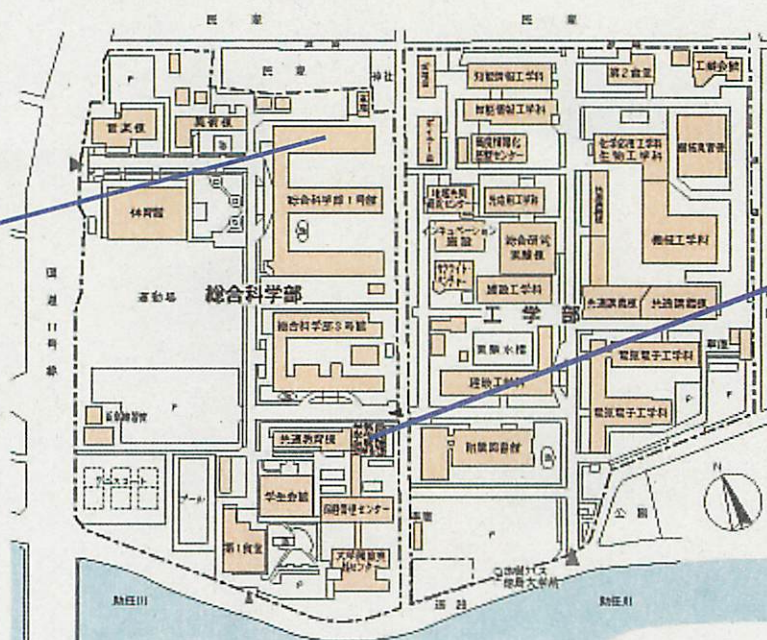
今年の4月からお世話になっています。人と話すことが大好きなので毎日留学生と会えるのが楽しみです。留学生のみなさん、何か聞きたいことがあればいつでも部屋に来てくださいね。

B館改修中の事務室移転

8月下旬から始まる常三島地区の建物改修に伴い、8月8日(水)より常三島の国際課国際交流係事務室の場所が下図のとおり移転にしました。

改修工事の完了する平成20年3月末まで総合科学部1号館で執務することになりますが、電話番号等には変更ありませんのでよろしくお願いします。

8月8日以降の
新事務室



8月7日までの
旧事務室

国際課の業務紹介

【常三島事務室】

総合科学部 1 号館 1 階北側（前ページ図参照）にあり、事務職員 4 名が留学生向けには以下の事務を行っています。

① 入国管理局への代行申請

在留資格更新許可、在留資格変更許可、資格外活動許可、再入国許可、在留資格認定証明書交付申請への代行申請手続きを行っています。

② 各種奨学金の申請

奨学金の情報は掲示板に掲示されます。申し込みたい奨学金があれば国際課事務室（蔵本地区は各学部の教務係）に書類を取りにきてください。

③ 国際交流会館、日亜会館の入居申請と延長申請

新規入居の時期は 4 月と 10 月です。入居、延長とも申込み時期は 1 月頃と 7 月頃です。

④ 医療費補助申請

国民健康保険を使って医療機関で受診した場合、料金の一部が補助されます。申請書類に記入し、医療機関発行の領収書を添えて提出してください。

⑤ 住宅総合補償制度への加入手続き

民間のアパート等に入居するときには必ず加入してください。加入金に対する補助があります。

⑥ 日本語研修コース、全学日本語コースへの申込み受付

4 月頃、10 月頃の年 2 回、日本語を勉強したい日との申込みを受け付けています。



【蔵本留学生支援室】

蔵本会館 2 階にあり、月曜日から金曜日の午前 10 時から午後 5 時（火曜日及び金曜日は午後 5 時半）の間、国際課事務職員 1 名（月曜日から金曜日の毎日）と留学生センター教員（火曜日及び金曜日）が勤務しており、留学生の相談に応じて、トラブル、悩み事などのサポートをしています。

支援室には、テレビ、マルチビデオシステム、CD プレーヤー、パソコン、新聞や雑誌なども用意されています。

なお、日本語研修コース、全学日本語コースなどの申込みや、各種事務手続きの取次も支援室で受け付けています。

また、連絡ボックスが設置され、個人宛の通知が投函されることもありますので、可能な限り頻繁に確認をお願いします。

日本人学生にとっては、留学生との交流の場としても活用できますので、是非ご利用ください。



徳大留学情報

留学生センターでは、短期語学研修を中心に派遣留学を行っています。それ以外にも各学部で様々な国際交流プログラムがあります。今回は、学部毎で実施されているものをまとめてみました。(なお、各プログラムの名称は「仮称」ですので、ご了解下さい。)

医学部保健学科 アメリカ短期専門研修プログラム

保健学科		保健学科（放射線）	
時 期	3月中旬（約1週間滞在）	時 期	3月中旬（約1週間滞在）
派遣先	フロリダ・アトランティック大学（FAU）	派遣先	FAU（4日間）、テキサス大学ヒューストンサイエンスセンター（3日間）
内 容	FAU看護学科において、講義・演習を体験する。	内 容	両校において、講義・演習を体験する。
参加人数	例年10名以内	参加人数	例年2～3名程度

歯学部 テキサス大学ヒューストン校短期滞在プログラム

時 期	3月下旬（約1週間）
派遣先	テキサス大学ヒューストン校
内 容	専門に関する実習ならびに視察
参加人数	若干名

歯学部 朝鮮大学校歯科大学国際交流プログラム

時 期	3月下旬
派遣先	朝鮮大学校歯科大学
内 容	徳島大学歯学部－朝鮮大学校歯科大学国際交流セミナーへの参加
参加人数	例年10名以内



注 意

参加費用、申し込み方法、滞在形式などについては、各プログラムをご担当されている先生にご相談下さい。
その他にも例年開催されている国際交流事業がございましたら、留学生センター（坂田）までご連絡下さい。

【交換留学・研究留学制度について】

上記の短期的なプログラム以外にも、交換留学・研究留学が可能です。次回は、これらの制度について簡単にまとめてご紹介するようになりたいと思います。

短期専門研修

工部 短期留学研修
交換

留学体験記 going abroad to study record

『海外留学の意義』

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔分子病態学分野准教授 石丸 直澄

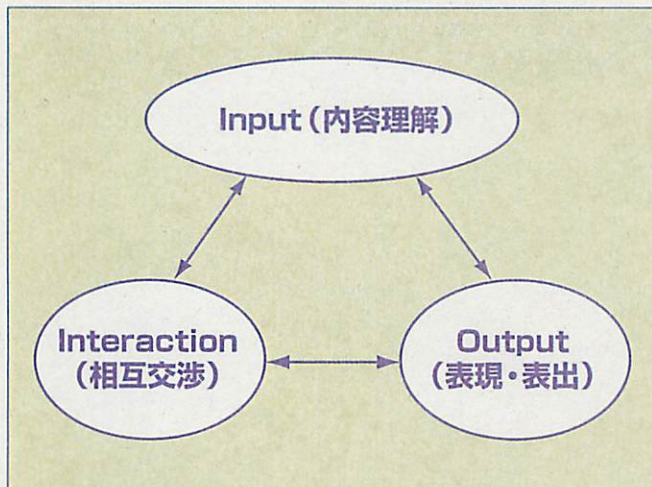
2003年の夏に家族3人で渡米しました。California州南端 San Diego の SCRIPPS 研究所免疫部門の研究員として1年8ヶ月間滞在しました。私はすでに35歳を過ぎ一線の研究者としては体力、気力ともにやや不安を抱えていた上に、ある程度の結果を出さなければというプレッシャーに押しつぶされそうな思いでの出国でした。『T細胞の神様』と評される Jonathan Sprent 教授の下でT細胞のシグナル伝達機構という雲を掴むような研究テーマを与えられ、渡米して2、3ヶ月は何をやっているのか分からず、焦るのみでした。そんな不安を和らげてくれたのが明るくて爽やかな気候と安いワインでした。あまり考えても仕方ないと割り切りひたすら体を使った実験を続けました。

大きく立ちはだかる言葉の壁のために最初の半年くらいまでは無口な日本人と思われていました。寝言でも英語で誰かに謝っているのを聞いた妻に何度も慰めてもらったことがあります。住んでいたアパートに無数の蟻が出現したことがあり、あわててアパートの事務所に駆け込み『a huge number of ants』と言う所を『a huge ant』と大げさに言ってしまったために『巨大』な蟻退治のために専門業者が呼ばれましたが、「普通の蟻じゃん」と言われました。

帰国して2年が経過し、この留学により研究面では実際にはそれほど自分のスキルとしての向上はなかったように思えます。日本で身に付けた技術の方がはるかに役に立っているように感じます。留学前は海外に行って研究面での自分の力を試してみたい、業績を上げたいと思っていたのですが、渡米していろいろな経験をしていくうちに、この留学の目的は異文化に触れることにより日本人としての自分の生き方を再確認することではないのかと思うようになりました。帰国前に論文を書いてボスに渡すと「ありがとう」と言われ、世の中にはいろんなボスがいるのだなあと、この留学の別の意味合いを噛みしめました。父親の勝手に海外生活をさせられた7歳の息子はいまだにアメリカのテレビ漫画が大のお気に入りです。



日本語研修コース 紹介



日本語研修コースは約5ヶ月（2007年春は4月6日～9月6日：夏季休暇8月2日～27日）の集中日本語コースです。日本語を全く学習したことのない留学生に、月曜日から金曜日まで毎日朝8時40分から午後2時30分まで1日に約4.5時間の授業があります。

2007年春の受講者は、エジプト人2名、バングラデシュ・ヨルダン・ケニア・モンゴル各1名の計6名です。

このコースでは、語学学習の三つの基本要素（Input・Interaction・Output）のバランスを常に考えています。

例えば、教室では「日本語そのものの教育＝Input」と、①学習者と教師②学習者と学習者そして③学習者と学生・地域サポーターとの「日本語でのやりとり＝Interaction」が、さらに「日本語での言いたいことの表出＝Output」が行われます。また、様々な文化活動（書道、華道、茶道）の中でも、「文化に関する学習＝Input」、指導をしてくださる先生やサポーターとの「やりとり＝Interaction」、「作成すること・製作物＝Output」の三つがあります。そして、地域社会での活動、ホームビジットやホームステイ（藍住町・美馬市）、小学校・公民館訪問（スピーチと交流）では、様々な人とのやりとりを通して、各人が教室で学んだ日本語を積極的に使っていきます。

このように、日本語研修コースでは学習の場を教室からさらに拡大し、地域社会へと結びつける中で、学習者それぞれの個性や目標を考えた日本語教育を実践しています。



▲新町川クルーズ 4月



▲書道 5月



▲学生・地域サポーターと 5月



▲華道 7月



▲小学校訪問 7月



▲公民館訪問 8月

「国際交流の扉を拓く」

徳島大学の国際化に努める留学生センターでは、国際交流に関する展示会（2007年6月ギャラリー新蔵にて開催・現在は常設展として実施）と共通教育にて開講中の講座（2007年後期）の名称を同じく「国際交流の扉を拓く」としました。その理由をご紹介します。

ここしばらく私たちを取り巻く社会では、「国際化」がキーワードになっています。しかし、その「国際化」とは「何がどうなることなのか?」、また「何をどうしていくのか?」に対する明確な答えは出ていたとはいえません。むしろ私たち、それぞれにその答えは任されているといえます。

そこで、多岐にわたる様々な分野での「国際化」を考える前に、その根底にある一人ひとり心の持ちよう、すなわち「異文化に対する心の扉を未知のものに向かって開く勇気を持つ」ことが大事なのではないかと考えました。

私たちは知らないことわからないことに対して、憧れを抱く場合と、逆に恐れや不安を持つ場合があります。後者の思いを取り払うには、異文化に対する心の扉を「開く」だけでなく、あえて、開拓者のように「切り拓く」ことが大事なのではないかと考えたのです。

このたび、共通教育科目として開講中の講義におけるキーワードは次の3つです。

- ① 異文化を理解すること
- ② 共に生きること
- ③ 新たな社会を創ること



「国際人」とは「目は遠くに足は地につけて行動する人」ということばが示すように、徳島という地にしっかり足をつけて、しかし頭では広く地球のこれからを考えて行動できる人材育成を考え、留学生センターは今後も活動及び授業を展開します。



国際交流サロンのご案内

毎月1回、地域のみなさま、徳島大学で学ぶ留学生、日本人学生との交流を図る国際交流サロンを留学生センターで開催しています。

日本語でのおしゃべり、阿波踊りや書道、茶道といった日本の文化、徳島の文化を共に体験しながら交流を図ります。

学内の掲示をご覧ください。



留学生センター連絡先

◎留学生センター長

教 授	細井和雄	hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp	088-633-7323 (内 83-5210)
-----	------	------------------------------	--------------------------

日本語教育担当

◎副センター長

教 授	大石寧子	oishi@isc.tokushima-u.ac.jp	088-656-9875 (内 81-6212)
-----	------	-----------------------------	--------------------------

教 授	三隅友子	misumi@isc.tokushima-u.ac.jp	088-656-7120 (内 81-6214)
-----	------	------------------------------	--------------------------

准教授	上田崇仁	ueda@isc.tokushima-u.ac.jp	088-656-9872 (内 81-6213)
-----	------	----------------------------	--------------------------

学生相談・指導担当

教 授	金 成海	kin@isc.tokushima-u.ac.jp	088-656-7543 (内 81-6215)
-----	------	---------------------------	--------------------------

異文化交流担当

准教授	坂田 浩	kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp	088-656-7199 (内 81-6211)
-----	------	--------------------------------	--------------------------

◎国 際 課

常三島地区	088-656-7082 (内 82-7082)
-------	--------------------------

蔵本地区	088-656-7398 (内 83-7398)
------	--------------------------

新蔵地区	088-656-7491 (内 81-6220)
------	--------------------------

編集後記

編集作業が遅れご迷惑をおかけしました。徳島大学、徳島という地域の中で留学生センターと国際課が「国際化」に向けてどのような活動を進めているのかを知っていただけたらと思います。

発 行 徳島大学留学生センター

住 所 徳島市新蔵町 2 - 24

Tel. 088-656-7082 Fax. 088-656-9873

E-mail : ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp